



# 12月クラスだより

2024・12・26  
年長 富岡保育園

2024年も、もうすぐ終わろうとしています。4月の頃からすると、一人ひとりの子どもたちが、この一年で身も心も大きく成長し、逞しささえ感じられます。自分の思いが通らず、友だちと揉めることもあります。それも子どもたちにとっては貴重な経験であり、友だちと遊ぶことの楽しさを存分に味わっていることが、色々な遊びを通して感じられる今日この頃です。保育指針の中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」というのが書かれていますが、その中に「道徳性・規範意識の芽生え」というのがあります。「友だちと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友だちの気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。又、決まりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いをつけながら、決まりを作ったり、守ったりするようになる」まさに今、子どもたちは生きる上での修行中なのだと思います。

卒園まで、残り3ヶ月となりました。子どもたち一人ひとりが安心して園生活を送れているかを確認しながら、心理的な安心感、つまり「保護されている」「見守られている」「愛されている」「自分の思いが出せる」「楽しさや喜びがある」「認められる」という実感が味わえるよう一生懸命かかわっていきたいと思います。今年一年、大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました。来年もどうぞ宜しくお願い致します。良いお年をお迎えください。

## 「子どもの心のコーチング」菅原裕子著(PHP文庫)

子どもを良い子に育てたい・・・そう考えるあまり、声をかけ、世話をやきすぎて、依存心の強い自立できない子どもが増えているといえます。しかし、子どもの将来を思うなら、自分で考える力、周りの人とうまくやっていける本物の「生きる力」を身につけさせるのが親の務めです。(内容紹介より)

- ① 愛だけが自己肯定感を育てる
- ② 「甘えを受け入れる」と「甘やかす」は違う
- ③ 愛を教える母性と責任を教える父性
- ④ 朝起こさないことから始めよう
- ⑤ 親は叱っているのではなく、自分の都合で怒っている
- ⑥ 人の役に立つ喜びこそ副作用のないやる気の種  
～「えらいね」とほめるより「ありがとう」がいい!
- ⑦ 共感したとき、子どもは自ら動きたくなる
- ⑧ どう生活するか、まず親が「枠組み」をはっきり示す
- ⑨ ダメな事を言えば言うほどダメになる
- ⑩ 子どもを自己実現の道具にしないで
- ⑪ 子どもは完ぺきな親を求めてはいない



12月、マフラー製作に夢中になり、毎日お友だちと楽しみながら編み、自分だけの素敵なマフラーが出来上がりました。編み続けていると指が痛くなり「痛いよ～」と言う声に「無理しなくていいよ」と止めた日もありましたが、いつも「いや、大丈夫!」と返事が返ってきました。完成したマフラーを登園する時に付けている姿がとてもかわいい年長さんたちです。



## ～子どもたちに心の栄養を～

お正月、遠くへお出かけされるよりも、家族みんなでトランプやかるた、すごろく、凧揚げ、コマ回しなどしたり、親子でふれあって遊ぶことの方が子どもたちにとっては、一番幸せなことです。何よりも、お父さん、お母さんが、自分のために時間を作って付き合ってくれたということが、子どもにとって心のエネルギーとなりこれからの生きていく力となるのです。

もう一つ、絵本の読み聞かせどんなでしょうか？以前「心を育む絵本の力」という題で、お話しして下さった上田紀人先生は「絵本は子どもたちの幼い頃の「幸せな記憶」として残ります。お母さんのひざの上で聞くあたたかい声は、子どもたちに安らぎと安心感をもたらす愛情をたっぷりと感じ、情緒を安心させる(子どもの安心できる居場所と時間)これこそが本当の自立につながる」とおっしゃいました。

お正月休みお忙しいと思いますが、どうか子どもたちに心の栄養を与えてあげてください。



園長先生、和氣先生に年賀状を書きました。将来の夢や一年生になって頑張りたいことなど楽しんで書きました。そして、みんなでポストに投函してきました。

園庭にある銀杏の木が今年はとても綺麗に紅葉しました。落ち葉を箒で集めては「せーの」で一気に飛ばして遊ぶ子ども達です(笑)。

